

日常物品名の表記形態に関する研究

——各表記の主観的出現頻度と適切性についての評定——

浮田 潤・皆川 直凡
杉島 一郎・賀集 寛

I. はじめに

日本語は漢字・ひらがな・カタカナの複数の表記形態を有することを、その大きな特徴としている。心理学においても、この表記形態の多様性に関連した研究は数多くなされておられ、表記形態間で処理の様式が異なること (e.g. 斎藤, 1981) などが明らかにされている。さらに、神経心理学の分野でも、たとえば失語症患者において表記形態間 (特に漢字・かな間) で読解や書字の障害の程度に解離があることが知られている (e.g. Sasanuma, 1974)。このように、日本語の表記形態の多様性は、人間の情報処理過程を探索するうえで、きわめて興味深い様相を呈しており、今日でも異なる表記間での結果を比較するという方法は、心理学のごく一般的なパラダイムとなっている。

ところで、日本語が複数の表記が可能なものとしても、ある単語が通常どの表記で書かれるのが適切かについてはかなりの程度の規則性が存在し、また一般の日本語使用者の間でも、何等かの共通認識が存在するはずである。このことは、表記形態にかかわる研究において、表記間の比較を行なう際に大きな問題となる。すなわち、通常表記以外の表記で書かれたものは不自然な印象を与えるものとなるはずであり、このような表記の妥当性を考慮しないまま、与えられた結果を単に表記形態の違いによるものとしてしまうことには大いに疑問があると言わざるを得ない。

しかしながら、これまでこのような表記形態そのものの頻度、ないしは適切

性を直接検討した研究はほとんどなされていない。広瀬（1984, 1985）は、このような研究の必要性に言及し、「表記の親近性」という概念を導入して、それが単語の認知に及ぼす効果について検討しているが、その後もこの問題に対する体系的な研究は行なわれていないようである。言語材料を何等かの尺度において次元化し、標準化しようとする試みは古くから数多くなされているが（c. f. 荒木・梅本, 1984）、それらをさかのぼってみても表記形態そのものを直接扱ったものは見当たらない。

そこで本研究では、この表記の妥当性ないしは標準的な表記形態についての基礎的資料を提供するために、日常物品名を対象に、各表記の主観的出現頻度（日頃の生活のなかで、どの程度目にするか）と各表記の適切性（その表記が適切か否か）の2つの尺度についての予備的な評定実験を行なった。

II. 主観的出現頻度についての評定

1. 目的

日常物品名 119 語を漢字・ひらがな・カタカナの各表記形態で表記したのに対し、それらを日常生活のなかで目にする頻度がどの程度か、についての評定実験を行ない主観的出現頻度を求める。

2. 方法

1) 材料

漢字・ひらがな・カタカナのいずれでも表記が可能な動植物名を除く日常物品名を、まず実験者4名が任意にリストアップし、そこであげられた約300語の中から討議による取捨選択で119語を選んだ。動植物名を除いたのは、予備的な実験であることを考慮して、材料数が膨大になることを避けるためである。選ばれた材料のカテゴリーは、主として道工具、日用品、家具、衣類などであり、いずれも具体的に指し示すことのできるものとして、総称名詞的なものは除いた。

2) 被験者

大学生・看護学校生 219 名（男 150 名 女 69 名）を対象とした。平均年齢は 18.9 歳（18—24 歳）であった。大阪・兵庫の 2 つの大学，および 1 つの看護学校で，いずれも心理学の授業時間を利用した集団実験として実施された。

3) 手続き

被験者に Fig. 1 に示す評定用紙 8 ページおよび表紙からなる小冊子を配付し，各々の表記の下のカッコ内に，次の基準に従って，いずれかの記号を記入するように求めた。

- 日頃の生活のなかでよく見る……………○
- 見ることもある……………△
- まず見ることはない……………×

①	②	③	
眼鏡 ()	めがね ()	メガネ ()	()
算盤 ()	そろばん ()	ソロバン ()	()
箱 ()	はこ ()	ハコ ()	()
窓 ()	まど ()	マド ()	()
包丁 ()	ぼうちよう ()	ハウチョウ ()	()
指輪 ()	ゆびわ ()	ユビワ ()	()
		ナベ ()	()
		イス ()	()

Fig. 1 用いた評定用紙の一例

その際、3つの表記間での段階付けをするのではなく、各々について個別に判断するように教示した。従って、たとえば漢字・ひらがな・カタカナの全てについて○を記入するという反応もよいこととした。また、各語の右のカッコ内には、被験者自身が当該の語を書くときにはどの表記を用いるかについて①～③の番号で記入させた。もしこれら以外（漢字かなまじりなど）の表記で書くという場合には、その表記法で実際に書き入れるように求めた。

評定用小冊子の作成にあたっては、各ページ内での項目語の順序は一定であったが、ページの順序を入替えることによって、被験者間で項目語の配列をカウンターバランスした。さらに、漢字・ひらがな・カタカナの3つの表記の配列順序についても、可能な順列6通りの冊子を作成してカウンターバランスした。ただし、同一冊子内では3つの表記の順序は一定であった。表紙には、年齢・性別の記入欄を設け、さらに上記の評定基準も掲げて、実験中いつでも参照できるようにしておいた。

評定は被験者ペースで行ない、特に制限時間等は設定しなかったが、所要時間は平均約20分であった。

3. 結果および考察

ここでは各項目語につき○（よく見る）と評定した被験者の比率のみについて検討する。この比率の全項目語についての一覧表は、末尾の付表1に示した。これについて、まず各表記形態ごとの分布を分析した。Fig. 2は、119の項目語を10%きざみの頻度にかけて表わしたものである。漢字では、よく見ると評定した被験者の比率が90%を超えるものが多数を占め、次いで10%未満のものが2割弱と両極端に多く分布している。カタカナでは、10%未満のものが最も多く、比率の低い方に分布がかたよっている。これらに対しひらがなでは、幅広く、なだらかな分布となっていることがわかる。

事後の分析の結果、次のような基準を設定して、119項目の分類を試みた。

- a) 並立型：3つの表記のいずれもが50%以上のもの b) ○○型：3つのうち1つが70%以上で他が50%以下のもの c) ○○優位型：1つが70%以上で

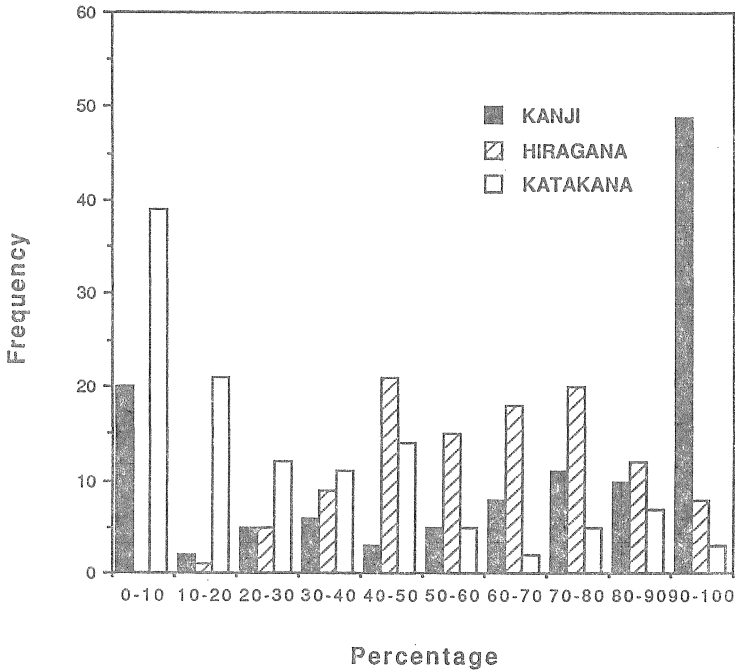


Fig. 2 ○と評定した被験者の比率による度数分布（主観的出現頻度評定）

他の2つのうち1つが50%以上のもの d) ○○・○○型：2つが70%以上で残りの1つが50%以下のもの。これにより、「並立型」「漢字型」「漢字優位型」「ひらがな型」「ひらがな優位型」「カタカナ型」「カタカナ優位型」「漢字ひらがな型」「漢字カタカナ型」「ひらがなカタカナ型」の10種類の型に分類し、それぞれの項目語数と具体的な項目語を示したのが Table 1 である。ここでは「漢字型」が全体の約 1/4 と多く、「漢字優位型」をあわせると40%を超えている。ついで「ひらがな型」および「ひらがな優位型」が多く、カタカナは少数であった。分類不能の項目についてみると、これらはそもそもその語自体の出現頻度が低いもの、および漢字ひらがなの混合表記が多く用いられるものようである。この点に関しては、今回の項目語選定にあたっての吟味が不十分であったと言えるだろう。

Table 1 分類した型ごとにみた項目数と項目語（主観的出現頻度評定）

分類型	項目数	項目語
並立型	9	椅子・鉛筆・鍵・傘・釘・葉・煙草・漫画・眼鏡
漢字型	31	糸・帯・紙・瓦・切手・鎖・下駄・皿・陣子・新聞・定規 墨・太鼓・茶碗・手紙・天井・時計・戸棚・扉・人形・灰皿 箱・封筒・包帯・包丁・本・本棚・窓・水・屋根・指輪
漢字優位型	20	鏡・壁・缶詰・靴下・塩・鈴・扇子・畳・棚・机・手袋・丼 鍋・針・筆・仏壇・弁当・帽子・枕・床
ひらがな型	22	うちわ・かご・かなづち・くし・ざる・じゅうたん そろばん・ぞうり・ねまき・のり・のれん・はかり・はしご ひも・ふきん・ふすま・ふとん・ほうき・まないた ものさし・やかん・わりばし
ひらがな優位型	10	こたつ・こま・しょうゆ・すいがら・せっけん・ぞうきん つぼ・のこぎり・ふでばこ・ゆかた
カタカナ型	1	カミソリ
カタカナ優位型	5	カバン・コショウ・タンス・ビン・ロウソク
漢字ひらがな型	10	切符・着物・靴・砂糖・杖・電話・風船・風呂・味噌・餅
漢字カタカナ型	2	缶・財布
ひらがな カタカナ型	2	はがき・はさみ
分類不能	7	花瓶・数珠・足袋・積木・鼻紙・便箋・湯呑

今回の実験では、主観的出現頻度の評定に加えて、自分で書くときにはどの表記を用いるかについても記入させたが、この結果は先の評定の分類結果とほぼ完全に一致したものであった。これは、今回の方法では、先の評定で○を記入した表記が、ほぼ機械的に選ばれる傾向にあったためといえる。さらには、評定用紙に3つの表記が提示されているために、たとえば実際には漢字で正確に書けない場合でも漢字表記を選択したのではないかと推察される反応もあった。従って、今回のように2つの判断作業を並行して課すような方法そのもの

に、やや問題があったと思われる。書く時に選択される表記形態の分析については今後、別に関書き取りを行なわせるなどの方法を検討する必要がある。

Ⅲ. 表記の適切性についての評定

1. 目的

先の主観的出現頻度の評定と全く同じ項目語に対し、各表記形態が適切かどうかについての評定実験を行ない、表記の適切性を検討する。

2. 方法

1) 材料

主観的出現頻度評定と同じ

2) 被験者

大学生・短大生 193名（男85名 女 108名）を対象とした。平均年齢は18.6歳（18—22歳）であった。大阪・兵庫の1つの大学、1つの短期大学で、心理学の授業時間内に集団実験として実施された。

3) 手続き

用いた評定用紙は、先の主観的出現頻度評定と全く同じで、記入方法も同じであったが、評定基準が以下のように変えられた。

見た目に自然で違和感がなく適切である……………○

やや適切さに劣るが容認できる……………△

不自然で違和感があり適切でない……………×

その他の方法、手続きは主観的出現頻度評定と全く同じであった。

3. 結果および考察

ここでも先と同様、各項目語について○（自然で違和感がなく適切である）と評定した被験者の比率についてのみ検討する。全項目語についての一覧表は末尾の付表2に示した。各表記形態ごとの分布を先と同様に示したのが Fig. 3

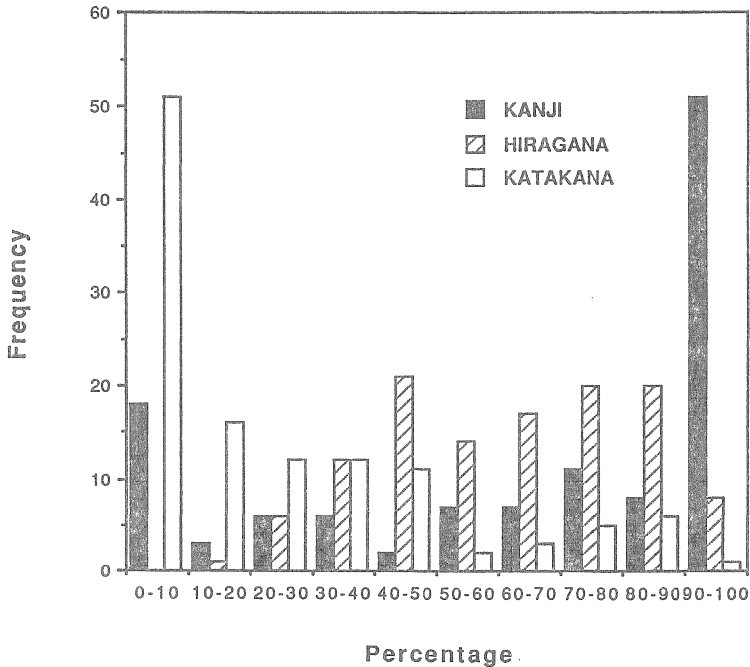


Fig. 3 ○と評定した被験者の比率による度数分布（適切性評価）

である。ここでもやはり、漢字では適切であると評定した被験者が90%以上の項目語が4割以上、次いで10%未満のものが多く、カタカナでは10%以下が多数で全体に低い方にかたより、ひらがなは広く分布していた。

119項目を先程と同様の基準によって分類したのが Table 2 である。Table 1 と比較すると、多少の項目の入替わりはあるもののほぼ同様の結果で、「漢字型」および「漢字優位型」が50%近くを占め、ひらがながそれに次ぎ、カタカナは少ないという結果であった。分類不能の項目語についても、先の主観的出現頻度評定と同様のことが言える。

自分で書くときはどの表記を用いるかについての結果は、やはり Table 2 の分類とはほぼ完全に一致したものとなり、先に述べた方法変更の必要性が重ねて示唆された。

Table 2 分類した型ごとみた項目数と項目語 (適切性評定)

分類型	項目数	項目語
並立型	5	椅子・葉・煙草・漫画・眼鏡
漢字型	33	糸・帯・鏡・紙・切手・鎖・皿・障子・新聞・定規・墨 太鼓・茶碗・机・手紙・天井・時計・戸棚・扉・灰皿・箱 針・封筒・仏壇・包帯・包丁・本・本棚・窓・水・墨根 床・指輪
漢字優位型	24	花瓶・壁・瓦・缶・缶詰・切符・着物・靴下・下駄・財布 塩・畳・棚・足袋・壺・積木・手袋・鍋・人形・筆・風呂 弁当・帽子・枕
ひらがな型	24	うちわ・かご・かなづち・くし・こたつ・こま・ざる じゅうたん・すいがら・そろばん・ねまき・のり・のれん はかり・はしご・ひも・ふきん・ふすま・ふとん・ほうき まないた・ものさし・やかん・わりばし
ひらがな優位型	7	しょうゆ・せっけん・ぞうきん・つえ・どんぶり・のこぎり ふでばこ
カタカナ型	2	カミソリ・タンズ
カタカナ優位型	3	カバン・コショウ・ピン
漢字ひらがな型	10	鉛筆・傘・靴・砂糖・鈴・電話・風船・味噌・餅・浴衣
漢字カタカナ型	1	鍵
ひらがな カタカナ型	3	はがき・はさみ・ろうそく
分類不能	7	釘・数珠・扇子・草履・鼻紙・便箋・湯呑

IV. 総 合 論 議

本研究の2つの実験は、異なった基準による評定で、被験者も別であったが、その結果はほとんど同じであった。○と評定した被験者の比率について、主観的出現頻度評定と適切性評定の間でスピアマンの相関係数を算出したとこ

ろ、漢字で $r=0.99$ 、ひらがなで $r=0.97$ 、カタカナで $r=0.99$ と極めて高い相関が得られ、両者の結果は同じものと考えてよさそうである。従って、今後はどちらかの尺度にしぼってデータの収集を行なってもよいかもしれない。しかしながら個別の項目語についてみると、両者の間で必ずしも一致しないものもあった。ちなみに、両評定の間で10%以上差のある項目を調べてみると、漢字で5、ひらがなで4、カタカナでは15項目もあり、この場合漢字の2項目を除いていずれも主観的出現頻度よりも適切性の方が低い比率となっていた。これは、2つの評定の基準を比較したときに、適切性の評定基準のほうが○という評定に対して、より厳格な表現になっていたためではないかと推察される。そのため特に、本来日本語である項目語のカタカナ表記に対して適切性評定の低いものが多いという結果になったものと思われる。このように、評定基準の結果への影響は無視しえないが、今回の研究では、この点についての十分な考慮が欠けていたと言える。従って、今後の研究の展開にあたっては、評定基準の尺度についてさらに検討し、どのような尺度をどのような表現で基準化するのが最適かという問題に対して、より注意を向けて行く必要がある。

次に、今回の結果の妥当性を検討するための付加的な分析として、「朝日新聞の用語の手引」(1981)において推奨されている表記法と、本研究の主観的出現頻度評定および適切性評定で○と評定された比率の最も高い表記との間の一致度を調べた。「手引」には119語のうち49語が掲載されていたが、今回の両評定とも、このうち34語(69.4%)について表記が一致していた。当然ながら、新聞等で用いられる表記法が、やはり頻度が高く適切と評定される傾向にあると言えよう。しかし逆に、一致しないものが30%余りあるということからは、今回試みたような、評定法によって表記の主観的出現頻度や適切性を検討するという方法の必要性ないし意義が認められたとも言えるだろう。

ところで本論文では、2つの評定実験とも○と評定した被験者の比率についてのみ結果を提示したが、3段階の評定を行なった以上、当然△ないし×と評定した被験者の比率についても分析が必要である。また、ここで得られた表記形態の主観的出現頻度ないし適切性という次元が、本当に心理学的な妥当性を

持つものかどうかについては、それを検証する実験を行なって確認する必要がある。さらに、評定の対象とする項目語についてもさらに吟味した上でその数と範囲を拡大し、実験の材料統制等により広範に利用できる基準表を作成して提供することが望まれる。これらについては、現在分析および計画を進めているところであり、稿を改めて提示したいと考えている。

V. お わ り に

表記形態に関する研究の今後の展開にあたっては、これまでに述べた以外にも考慮すべき問題が残されていると思われる。その第一は、対象とする被験者の年齢や範囲である。どのような表記形態が適切かというような判断は、当然世代や教育レベル等によって異なることが予想される。今回は学生のみを対象とした。心理学の実験において、大学生が被験者とされることが圧倒的に多いという実情を考え、その実験のための基準を提供するという目的に限れば同世代の学生のデータをもってこれにあてるというのも妥当であるかもしれない。しかしながら将来にわたっては、この被験者の世代や範囲による差という問題は是非とも取り上げていかななくてはならないだろう。

第二は、文脈の問題である。ある語がどのような表記形態で表記されるのが適当かは、当該の語単独のみならず、それが出現する文脈によっても規定される。「たんす」という語を例にとって考えると、それがたとえば桐でできた日本風のものであれば「箆笥」という漢字表記もマッチするが、洋風のものであれば「タンス」のほうが適切であろう。また、その語が提示される状況や想定される読み手によっても最適な表記は流動的に変化しうる。今回の研究では、全く文脈を与えない条件で行なったが、今後はこの文脈の影響も考慮していく必要があるだろう。さらには、文字を書くという行動において、どのような条件によって表記形態の選択が規定されるのかという問題へと研究を展開していくことも可能であろう。

これら以外にも残された問題はまだまだあるが、いずれにしても表記形態の

研究は、まだその途についたばかりであり、今後様々に発展しうる興味深いテーマであると言えよう。そして小論が、その端緒となることを願いたい。

※本論文の要旨は関西心理学会第102回大会(1990)において発表した。京都大学文学部の清水御代明・宇阪直行両先生をはじめ、発表の際に貴重な御意見を下さいました先生方に厚く感謝いたします。また、本論文をまとめるにあたり御助言をいただきました兵庫医大行動学教室の小西賢三先生に深く感謝の意を表します。

引用文献

- 荒木紀幸・梅本堯夫 1984 わが国における言語材料総覧 兵庫教育大学研究紀要, 3, 59-96.
- 朝日新聞社 1981 朝日新聞の用語の手引.
- 広瀬雄彦 1984 漢字および仮名单語の意味的处理に及ぼす表記頻度の効果 心理学研究, 55, 173-176.
- 広瀬雄彦 1985 単語の認知に及ぼす表記の親近性の効果 心理学研究, 56, 44-47.
- 斎藤洋典 1981 漢字と仮名の読みにおける形態的符号化及び音韻的符号化の検討 心理学研究, 52, 266-273.
- Sasanuma, S. 1974 Kanji versus kana processing in alexia with transient agraphia: A case report. Cortex, 10, 89-97.
- 浮田 潤——大学院博士課程後期課程——
- 皆川直凡——大学院研究員(日本学術振興会特別研究員)——
- 杉島一郎——大学院博士課程前期課程——
- 賀集 寛——文学部教授——

項目名	漢字	ひらがな		カタカナ			
		度数	比率(%)	度数	比率(%)		
壺	ツボ	148	67.6	155	70.8	75	34.2
積木	ツミキ	147	67.1	127	58.0	34	15.5
紙袋	テガミ	218	99.5	102	46.6	5	2.3
井戸	テブクロ	206	94.1	135	61.6	8	3.7
天電	テンジヨウ	205	93.6	83	37.9	8	3.7
時計	デンワ	217	99.1	162	74.0	38	17.4
欄	ケイ	218	99.5	77	35.2	2	0.9
扉	トダナ	198	90.4	78	35.6	6	2.7
弁	トビラ	209	95.4	99	45.2	20	9.1
鍋	ドンブリ	159	72.6	139	63.5	35	16.0
形	ナベ	196	89.5	149	68.0	82	37.4
間	ニンギョウ	217	99.1	105	47.9	8	3.7
着	ネマキ	21	9.6	175	79.9	29	13.2
箸	ネコギリ	7	3.2	171	78.1	139	63.5
箸	ノリ	76	34.7	209	95.4	84	38.4
暖簾	ノレン	13	5.9	196	89.5	10	4.6
皿	ハイザラ	216	98.6	59	26.9	4	1.8
秤	ハカリ	21	9.6	182	83.1	56	25.6
書	ハガキ	66	30.1	184	84.0	205	93.6
箱	ハコ	214	97.7	97	44.3	13	5.9
鉄	ハサミ	6	2.7	184	84.0	185	84.5
梯子	ハシゴ	21	9.6	177	80.8	79	36.1
紙	ハナカミ	108	49.3	94	42.9	67	30.6
鼻	ハリ	216	98.6	128	58.4	47	21.5
紐	ヒモ	44	20.1	188	85.8	72	32.9
壇	ビン	5	2.3	143	65.3	183	83.6
便箋	ビンセン	91	41.6	133	60.7	31	14.2
風船	フウセン	189	86.3	176	80.4	59	26.9
筒	フウトウ	209	95.4	53	24.2	24	11.0
巾	フキン	73	33.3	195	89.0	107	48.9
襖	フスマ	52	23.7	186	84.9	22	10.0
筆	フデ	211	96.3	122	55.7	4	1.8
箱	フデバコ	121	55.3	160	73.1	9	4.1
蒲団	フトン	65	29.7	203	92.7	82	37.4
呂	フロ	214	97.7	164	74.9	87	39.7
壇	ブツダン	205	93.6	117	53.4	4	1.8
当	ベンドウ	217	99.1	144	65.8	20	9.1
箒	ほうき	6	2.7	174	79.5	105	47.9
帯	ほうたい	198	90.4	88	40.2	60	27.4
包	ホウチャウ	197	90.0	77	35.2	8	3.7
本	ホン	218	99.5	94	42.9	4	1.8
本	ホンダナ	211	96.3	48	21.9	3	1.4
棚	ボウシ	208	95.0	143	65.3	34	15.5
子	マクラ	204	93.2	142	64.8	27	12.3
枕	マド	217	99.1	99	45.2	12	5.5
窓	マナ	2	0.9	176	80.4	8	3.7
俎	マンガ	180	82.2	164	74.9	210	95.9
漫	ミズ	219	100.0	97	44.3	9	4.1
水	ミソ	160	73.1	201	91.8	47	21.5
嗜	メガネ	162	74.0	137	62.6	194	88.6
味	モチ	168	76.7	193	88.1	59	26.9
鏡	モノサシ	20	9.1	201	91.8	22	10.0
餅	モロ	1	0.5	174	79.5	93	42.5
差	ヤカン	212	96.8	60	27.4	3	1.4
葉	ヤネ	214	97.7	120	54.8	19	8.7
灌	ユカ	144	65.8	175	79.9	20	9.1
根	ユカ	96	43.8	111	50.7	4	1.8
床	ユノミ	216	98.6	62	28.3	4	1.8
浴	ユビワ	14	6.4	153	69.9	195	89.0
衣	ロウソク	71	32.4	194	88.6	24	11.0
吞	ワリバシ						
指							
輪							
燭							
燭							
管							

付表2 表記の適切性についての評定：○と評定した被験者の度数と比率

項目名	漢字	ひらがな		カタカナ			
		度数	比率(%)	度数	比率(%)	度数	比率(%)
椅子	いす	120	62.2	150	77.7	103	53.4
糸	いと	191	99.0	83	43.0	3	1.6
扇	うちわ	27	14.0	178	92.2	8	4.1
鉛筆	えんぴつ	178	92.2	151	78.2	90	46.6
帯	おび	172	89.1	71	36.8	11	5.7
鏡	かがみ	188	97.4	96	49.7	79	40.9
鏡	かが	177	91.7	96	49.7	148	76.7
籠	かご	75	38.9	170	88.1	86	44.6
傘	かさ	165	85.5	137	71.0	87	45.1
植	かなづち	11	5.7	147	76.2	85	44.0
袍	かばん	81	42.0	121	62.7	147	76.2
花瓶	かびん	138	71.5	106	54.9	42	21.8
壁	かべ	186	96.4	112	58.0	67	34.7
紙	かみ	190	98.4	78	40.4	14	7.3
剃刀	かみそり	50	25.9	53	27.5	172	89.1
瓦	かわら	145	75.1	97	50.3	9	4.7
缶	かん	184	95.3	62	32.1	122	63.2
詰	かんづめ	179	92.7	133	68.9	77	39.9
切手	きって	191	99.0	29	15.0	1	0.5
切符	きっぷ	185	95.9	121	62.7	56	29.0
着物	きもの	182	94.3	131	67.9	8	4.1
釘	くぎ	134	69.4	97	50.3	96	49.7
鎖	くさり	150	77.7	88	45.6	52	26.9
櫛	くし	42	21.8	161	83.4	84	43.5
薬	くすり	186	96.4	154	79.8	129	66.8
靴	くつ	178	92.2	143	74.1	67	34.7
下靴	くつした	173	89.6	97	50.3	3	1.6
下駄	げた	154	79.8	104	53.9	58	30.1
胡椒	こしょう	24	12.4	118	61.1	164	85.0
炬燵	こたつ	7	3.6	154	79.8	92	47.7
独楽	こま	6	3.1	155	80.3	85	44.0
財布	さいふ	178	92.2	85	44.0	106	54.9
砂糖	さとう	189	97.9	142	73.6	37	19.2
皿	さら	191	99.0	86	44.6	6	3.1
笊	ざる	3	1.6	170	88.1	59	30.6
塩	しお	191	99.0	116	60.1	11	5.7
障子	しょうじ	180	93.3	46	23.8	8	4.1
油	しゅうゆ	122	63.2	179	92.7	11	5.7
開	しんぶん	191	99.0	82	42.5	5	2.6
新	しんぶん	191	99.0	82	42.5	5	2.6
絨毯	じゅうたん	15	7.8	164	85.0	44	22.8
数珠	じゆず	108	56.0	106	54.9	5	2.6
定規	じょうぎ	177	91.7	85	44.0	27	14.0
吸殻	すいがら	81	42.0	159	82.4	14	7.3
鈴	すず	160	82.9	136	70.5	47	24.4
墨	すみ	182	94.3	76	39.4	24	12.4
罅	せつけん	129	66.8	148	76.7	71	36.8
扇子	せんす	132	68.4	94	48.7	3	1.6
算盤	そろばん	12	6.2	173	89.6	73	37.8
巾	ぞうきん	111	57.5	165	85.5	37	19.2
草履	ぞうり	70	36.3	135	69.9	40	20.7
鼓	たいこ	175	90.7	87	45.1	9	4.7
太	たたみ	181	93.8	121	62.7	85	44.0
棚	たな	184	95.3	99	51.3	9	4.7
煙草	たばこ	112	58.0	167	86.5	165	85.5
袋	たび	152	78.8	106	54.9	24	12.4
足	たんず	9	4.7	78	40.4	152	78.8
筍	たけのこ	146	75.6	88	45.6	4	2.1
碗	ちawan	126	65.3	137	71.0	28	14.5
杖	つえ	190	98.4	89	46.1	1	0.5
机	つくえ	190	98.4	89	46.1	1	0.5

項目名	漢字		ひらがな		カタカナ		
	度数	比率(%)	度数	比率(%)	度数	比率(%)	
壺	ツボ	140	72.5	128	66.3	68	35.2
積木	ツミガミ	149	77.2	109	56.5	35	18.1
手紙	テガミ	190	98.4	90	46.6	0	0.0
手袋	テブクロ	179	92.7	123	63.7	2	1.0
天井	テンジョウ	179	92.7	73	37.8	3	1.6
電話	デンワ	189	97.9	139	72.0	22	11.4
時計	トケイ	192	99.5	77	39.9	3	1.6
戸棚	トダナ	172	89.1	68	35.2	4	2.1
扉	トビラ	180	93.3	73	37.8	1	0.5
井	ドンブリ	109	56.5	139	72.0	19	9.8
鍋	ナベ	162	83.9	129	66.0	56	29.0
形	ニンギョウ	192	99.5	98	50.8	3	1.6
着	ネマキ	18	9.3	160	82.9	32	16.6
鏡	ノコギリ	8	4.1	143	74.1	119	61.7
糊	ノリ	65	33.7	177	91.7	55	28.5
暖簾	ノレン	36	18.7	178	92.2	1	0.5
灰皿	ハイザラ	189	97.9	48	24.9	2	1.0
秤	ハカリ	18	9.3	160	82.9	48	24.9
薬書	ハガキ	43	22.3	163	84.5	164	85.0
箱	ハコ	190	98.4	75	38.9	9	4.7
鉄	ハサミ	7	3.6	151	78.2	155	80.3
梯子	ハンゴ	14	7.3	166	86.0	64	33.2
鼻紙	ハンカミ	110	57.0	75	38.9	50	25.9
針	ハリ	188	97.4	95	49.2	28	14.5
紐	ヒモ	39	20.2	162	83.9	28	14.5
塩	ピン	13	6.7	119	61.7	153	79.3
便箋	ピンセン	77	39.9	128	66.3	18	9.3
風船	フウセン	166	86.0	161	83.4	36	18.7
封筒	フウトウ	186	96.4	64	33.2	19	9.8
布巾	フキン	68	35.2	164	85.0	82	42.5
襖	フスマ	45	23.3	174	90.2	8	4.1
筆	フデ	186	96.4	110	57.0	6	3.1
箱	フデバコ	111	57.5	143	74.1	2	1.0
蒲団	フトン	68	35.2	180	93.3	49	25.4
風呂	フロ	184	95.3	124	64.2	68	35.2
仏壇	ブツダン	181	93.8	84	43.5	8	4.1
弁当	ベンドウ	189	97.9	119	61.7	13	6.7
箒	ホウキ	7	3.6	153	79.3	75	38.9
包帯	ホウタイ	176	91.2	76	39.4	41	21.2
包丁	ホウチャウ	177	91.7	67	34.7	8	4.1
本	ホン	193	100.0	83	43.0	4	2.1
本棚	ホンダナ	183	94.8	48	24.9	0	0.0
帽子	ボウシ	184	95.3	128	66.3	27	14.0
枕	マクラ	176	91.2	122	63.2	19	9.8
窓	マド	191	99.0	81	42.0	4	2.1
俎	マナイタ	5	2.6	164	85.0	7	3.6
漫画	マンガ	142	73.6	140	72.5	178	92.2
水	ミズ	192	99.5	79	40.9	5	2.6
味噌	ミソ	136	70.5	174	90.2	22	11.4
眼鏡	メガネ	128	66.3	111	57.5	162	83.9
餅	モチ	155	80.3	162	83.9	31	16.1
物	モノ	17	8.8	182	94.3	13	6.7
差	モノサシ	17	8.8	182	94.3	13	6.7
薬	ヤカン	3	1.6	154	79.8	65	33.7
屋根	ヤネ	192	99.5	57	29.5	6	3.1
床	ユカ	183	94.8	95	49.2	10	5.2
浴衣	ユカタ	139	72.0	155	80.3	23	11.9
湯	ユノミ	98	50.8	111	57.5	3	1.6
指輪	ユビワ	190	98.4	50	25.9	6	3.1
蠟燭	ロウソク	13	6.7	140	72.5	146	75.6
箸	ワリバシ	46	23.8	165	85.5	6	3.1